

場所・面積

岩手県八幡平市、27.8ha

管理目的

十和田八幡平国立公園の岩手山を含む八幡平地域から続く広大な自然が連続した良好な自然環境の維持と生物多様性のさらなる向上を目指します。

サイト概要

豊かな自然に囲まれた工場で、環境に配慮した排水処理システムやCO2削減などを実施し、かけがえのない自然環境との共生を図りながら、高品質な医薬品を製造しています。

事業所内の動植物や、小川や湧き水に生息する生き物などを調査した結果、951種の動植物が生育・生息しており、その中でもカモシカ（特別天然記念物）やヤマネ（天然記念物）など22種の希少種が確認されています。

土地利用の変遷

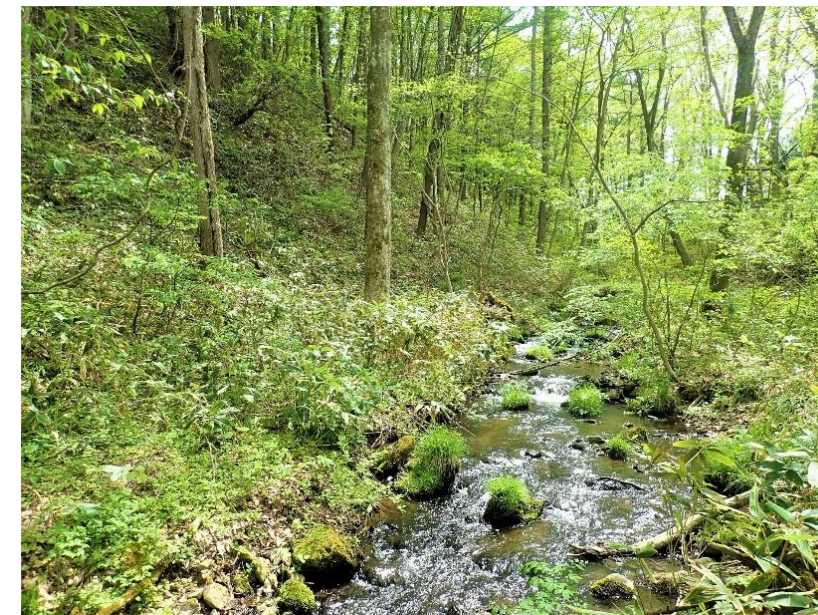
かつてはミズナラなどの雑木林やアカマツの自然林が多かったが、スギ、カラマツ等の植林により針葉樹が増えています。

サイト周辺の環境

標高は約300～350mで、前森山を経て八幡平に続く山地の先端部に位置しています。その先には、北上川水系長川流域の低地帯となっています。

アピールポイント

従業員自らが、落葉広葉樹を継続的に植樹したり、トウホクサンショウウオやモリアオガエルの産卵場所を整備するなど、当工場の生物多様性に貢献する環境づくり、自然の循環を活かした持続可能な維持管理をしています。また、近隣小学生を対象に、敷地内の小川や湧き水付近に生息する生き物観察会を実施しています。



写真番号：① 写真の撮影年月：2022年5月
写真の説明：春の堤沢（左側斜面が当工場敷地）

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

奥羽山脈北部の岩手山、八幡平、前森山といった山岳地から、八幡平市街地の広がる低地部へと移行する、山地～丘陵地の端部に位置しています。敷地周辺の環境は、敷地内と同様な樹林地の他、牧草地、畑地、水田等の耕作地、北上川水系の支流である長川やその支流の堤沢等の河川、小規模な集落など、多様な環境が広がっています。よって、このサイトは、後背に広大な山地樹林をひかえ、前面には耕作地等が分布し、これらの境界に位置する場所（いわゆるエコトーン）といえます。

【主な植生】

工場用地を除くと樹林地が大半を占めており、敷地周辺には同様な樹林地の他、耕作地等が見られます。植生は、カラマツ群落（植栽由来の落葉松が優占する落葉針葉樹林。草本層にはクマイザサが密生している場合が多い。）の占める割合が高く、長川に面した斜面部にコナラ群落（コナラ、ミズナラ等の落葉広葉樹が優占する高木林。低木層、草本層が発達し、生育種が比較的多い。）が、尾根部にアカマツ群落（アカマツが優占する針葉樹林。もともとは植栽由来の可能性もある。低木層、草本層が発達し、生育種が多い。）が分布しています。

【確認された主な動植物】

植物399種、哺乳類15種、鳥類60種、両生類8種、昆虫類469種の計951種の動植物の生育・生息が確認されています。



写真番号：② 写真の撮影年月：2022年6月
写真の説明：猛禽類ノスリの雛



写真番号：③ 写真の撮影年月：2022年9月
写真の説明：ツキノワグマの親子

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

1973年に工場用地を取得した時点では、林野の中に耕作地等が林野部を分断する形で複数点在している状況でした。

50年の年月を経て中心部の工場建屋群を囲むように連続した自然林が形成され、奥羽山脈と連続した自然環境を形成しています。

また、敷地内に複数の湧水地があり、野生動物が水場として利用するほか、希少な水生生物の生息場所にもなっています。

【確認された希少種】

2022年～2023年にかけて行った現地調査では、文化財保護法、環境省のレッドリスト、岩手県のレッドリストに該当する重要な種として、植物7種、哺乳類3種、鳥類8種、両生類3種、昆虫類1種の計22種の希少種の生育・生息が確認されています。



写真番号：④ 写真の撮影年月：2023年5月

写真の説明：産卵場所整備と孵化寸前のトウホクサンショウウオ



写真番号：⑤ 写真の撮影年月：2023年1月

写真の説明：特別天然記念物のカモシカ

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樹林の整備（落葉広葉樹の植樹） 最も多くの面積を占めているカラマツ植林を適宜除去し、生物多様性の低下に影響しているササ類を刈取りを行うことにより、林床植物の多様性の回復を促していきます。適所に広葉樹の苗木を植栽することにより、落葉樹林化を進めていきます。 ・両生類（重要種）の産卵場所の整備 トウホクサンショウウオが卵を産み付けやすく、かつ流されないよう水辺環境の改善・創出をしていきます。モリアオガエルの産卵時期にはコンテナビオトープを設置し、必要に応じて創出した繁殖場所へ移殖していきます。 ・外来種対策 ハリエンジュの伐採後も切株を定期的に監視して、ハリエンジュの稚樹も拡散しているので、駆除マニュアルを活用して、引き続き、これらの駆除を行っていきます。伐採跡地には在来種の広葉樹（オニグルミ等）を植栽していきます。 ・危険生物への対応 ツキノワグマの詳細な生息状況調査をすることにより、侵入経路や行動範囲等を把握して、対応策を検討・実施して、ツキノワグマとの共生を図っていきます。 ・ノスリの営巣環境保全 繁殖期間中は営巣林周辺に近づかないよう配慮し、特に影響の大きい繁殖期初期は極力注意するようにします。 ・工場敷地周辺も含めた環境保全 長川に生息する水生生物の種類や量を調査し、継続的に監視していきます。 	<p>【モニタリング対象】 植物、哺乳類、鳥類、両生類、昆虫類</p> <p>【モニタリング場所】 工場敷地及びその周辺</p> <p>【モニタリング手法】 各動植物の生育・生息調査</p> <p>【実施時期及び頻度】 5年毎に実施</p> <p>【実施体制】 株式会社地域環境計画の専門家の皆様</p>